

① 定時制、開校

1 定時制課程の発足

昭和22年3月 学校教育法 公布 = 定時制課程のはじまり

第44条

高等学校には、通常の課程の外、夜間において授業を行う課程又は特別の時期及時間において授業を行う課程を置くことができる。

[愛媛県の取組]

昭和23年9月21日 愛媛県立高等学校（定時制課程）設置規程 制定

県内で併設校31、独立校11、分校34、計76校の定時制課程が発足

昭和23年10月15日、松山第二高等学校併設定時制普通科が開校した。

第1回入学式は、同日午後5時から講堂で挙行された。定時制らしく夕日に向かっての入学式であった。〔第1期生=女子48名〕

2 第1期生が学んでいた頃

－ 述懐① －

昭和20年戦争が終わり、焼野が原の松山市も急激に復興をはじめ、街には、横文字禁止時代の反動のように英語塾が流行、ダンスホールに人が溢れました。そんな折、新しい学制による高等学校に夜間の学生を募集する広告が出たのです。私は吸い寄せられるように校門をくぐりました。戦争で多くの人を失った戦後、老いも若きも女子も、働くのがあたりまえ、そんな中で夜、高校教育を受けられることは、すくいであり、やすらぎでした。

『創立百周年記念誌 南薫百花』より

－ 述懐② －

当時の私達のクラスメートといえは随分年齢的に開きがありました。17歳から25歳くらいまでの人達で、実に多種多様、職業は官庁関係あり看護婦さんあり銀行員あり、特に東洋レーヨン勤務の人が圧倒的に多かったことをよく憶えています。

『八十年のあゆみ』より

－ 定時制に勤務して －

1、2期生は女子だけで、きめの細かい物静かではあるが芯のしっかりした人が多かったと憶えております。敗戦後の耐乏生活の中で職業人として鍛えられた彼女達に、新米教師の私など気押されるような感じがありました。勤務した20年の間に社会事情も生徒の気質も変わりましたが、一貫していえる事は「**自分の事は自分です**」という点だと思います。

『八十年のあゆみ』より



卒業式の集合写真 [1期生]

『八十年のあゆみ』より